

令和3年度 えりも町総合教育会議議事録

1 日 時 令和3年11月16日（火）

2 出席者

(1) 町 町長、副町長、総務課長

(2) 教育委員会 教育長、西川委員、嵯峨委員、田名部委員、学校教育課長、社会教育課長

3 議事録

開会（午後4時00分）

教育長

えりも町総合教育会議を始めます。

始めに町長から挨拶をいただきたいと思います。

町長挨拶

総合教育会議の場で、教育委員と懇談を持てるのはとてもありがたい。

先日、子ども議会があり、子どもの質問の中にも児童生徒が少なくなってくると将来的に学校編成や学級編成や統合の部分について、厳しい難しい質問もあった。

資料も事前に見させてもらったが、本当に子どもも少なくなってくる。当然、学校の統合など考えざるを得ないのかなという思いである。

この懇談が有意義に進めばいいかなという思いでいるので、よろしくお願いします。

教育長

本日、川崎委員は所要のため欠席であります。

始めに「学校の在り方について」を議題とします。

西川委員

子どもの人数が現状から年を追うごとに減少している。

東洋小学校がえりも小学校に統合されて、それで一段落かと思ったところ、笛舞小学校も同様の児童数の減少が見られ、危機的状態である。学校運営、学校経営の観点からその児童数で学校と言えるのか東洋小学校のような状況が数年で迎えることになる。

近浦、笛舞の保護者と近々にそういう話し合いの場を持つ時期がきているのではないかと。さらに、令和9年度ではえりも高校の学年までを考えていかないとえりも高校の存続の観点からも非常に厳しい状況を迎えるのではないかと。

そこで、小学校の統廃合を起点にして小学校の再編が重要課題である。中学校と高校の連携、さらに強化したもので、えりも中学校からえりも高校へかなりの人数が進学していただけるような状況を作っていくとしない。

教育長

笛舞小学校は、今年度 22 人で徐々に減少し、令和 8 年度で 14 人、令和 9 年度で 9 人となる。1 年生と 2 年生が 0 人で、9 人となる。令和 8 年度まで、笛舞小が 14 人、えりも小が 117 人、岬小は 26 人で、庶野小が 20 人で、急に減っていく状況である。

このため、様子を見ながら話し合いはしていかなければならない状況である。

町長

早い段階で笛舞は、一時、統合という話があった気がしていたが、その前に東洋が先に統合することとなってしまった。本当にえりも町の人口が 4,4~500 人だとすると、同じ規模の町村にしたら、学校の数はえりも町が多い。

漁業の町であって、それぞれの集落がどうしても 1 か所に固まらず、それぞれ集落があるから、それぞれの小学校が残ってくる。ある意味仕方ない部分はある。

嵯峨委員

統廃合するにしても、昨年、一昨年に東洋小学校が重ねてきた話し合いであるとか、住民本意のなかで進めていくのがいいのかな。そうしたうえで統廃合に持っていけるのが一番望ましいのかなと思います。

えりも高校は、6 年後には小学生 34 人、ということは中学校にも 34 人で、中学卒業の際は、多分 34 人ないし、転校生があれば、増えていく期待はあるにせよ、2 間口 35 人学級はかなり厳しい状況になっていくと思います。

そこで、えりも高校の在り方についても、しっかり考えていかなければならないと思っています。現状だと、進学については、かなりいいところであるが、当然、生徒数が減れば、先生の数も減りますし、そこで、きめ細かな教育ができるかといったら、それも難しくなっていくと思います。子供たちにとって、どれがベストなのかを考えていかなければならない。

町長

えりも町はそれぞれ集落があって、目黒から近笛まで小学校があったが、集落があるからといって小学校を残さないなかで、今回、東洋が統合に踏み切ってきた訳でありますけども、あとは子供たちが少ない人数で、いろんな行事をするにしても、あとは地域の人がどのように考えているか。行政が主導して統合しないと駄目だとか、私は正直なところしたくない。

地域の方がどう考えているか。子供のことを考えたら、統合も仕方ないなと進むのであれば、尊重したいが、少なくとも行政側から仕掛けるのはちょっとしたくない思いはしている。

嵯峨委員

最初のころは、行政主導のほうがいいと思っていたが、去年、一昨年の東洋小学校を見たときに、やはり、住民の理解を得たなかで、動いていかなければ、だめだなとすごく認識した。

町長

あくもでも地域でどのように考えているか、統合したあとでも、気持ちのなかで、納得してくれる思いはある。

高校も徐々に減ってきて、2間口が厳しくなってきたとき、どうするかということだけ、ある高校は、全国から子供を募集していて、何人かきているようだが、えりもも段々少なくなってきたときに、えりもとして何ができるか、えりもが教育に力を入れているのだとしたら、えりもに行ってみたい、何人かいるかもしれない。

副町長

えりもも2間口でやっているが生徒も先生も頑張っている。2間口である程度教員の数を確保しながら、いろいろな多様な学習をさせたい。なんとか維持できるような色々な方法を模索しながら、えりもの特色を出しながら、募集して2間口維持できる状態をサポートしていきたい。えりもの子もえりも高校に行けば、それなりの大学にいける。

教育長

えりも高校を存続させるために、色々な手を打っていかなければならない。

町長

何か特色を出さないとならない。なんか特色を出して、町内の子どもで賄えないのであれば、町外から1人でも2人でも来てもらえるよう仕向けていかないとどうにもならない。

町長

少なくとも、高校は残したい。ある町も高校なくなってから、えりもが羨ましいという声を聞く。町で子供の声を聞かなくなった。

えりもは、小学生から高校生まで、町で見かけたりすると、なんか元気になれるのかなという思いはしている。高校は今後、どういう形で存続できるかは別として、少なくとも高校だけはなんとか残したいという思いがある。小中は、当然残していかないとならない。

教育長

ギガスクールによるタブレット端末、えりも町の強みである若い先生が多いなかで、他の町に比べて進んで実践している。小規模校も学習面では、お互いの学校をオンラインで繋いで、一緒に授業をやるとか、少人数の弊害も少しはなくなるのではないかな。

実際に、えりも小学校とえりも岬小学校がオンラインで結んで一緒に授業をしている。そういう意味では、統合ばかり考えないで小学校くらいは小さい学校の強みを生かした教育も今の時代には必要である。

町長

笛舞小学校は、特に色々な特色を出して、頑張ってくれている。十勝の広野小学校との学校交流や地域、PTAなど、それぞれ頑張ってくれている。

町長

えりも高校もこのようなパンフレット作って、いろいろ頑張っている。近隣町の生徒がえりも高校にきてくれるようになれば、ありがたい。

田名部委員

仕事柄、町内に配達することがあって、中学生や高校生が学校帰りで、すごく元気よく挨拶してくれる。高校がなくなれば、そういうこともなくなって寂しくなる。

私の母校で第1期生でありますけども、できれば残してほしいと思いながらも、先日の子ども議会で1年生が質問した再編の話も、庶野小学校時代に複式学級にいて、少人数で良かったんだけども、中学校に行って、大人数になって、いろんな考えがある。多様性というところで、楽しかったということで、高校生になってそういう質問になったと思う。子供がそう思うのが驚いて、西川さんがよくいう目黒が統合するときは、すごく大変だったんだけども、でも東洋の統合はすんなり地元の人たちがすごく大事に考えていてくれて、スムーズに統合できた。

町長

町の人口が減るとどうするのと思を持っている人がいる。漁業や農業の基幹産業がしっかりしていれば、ある程度の減少は致し方ないものの、それ以上は減らないものだと思う。人口が少なれば、国からの交付金も減るのは当たり前の話であって、行政が身の丈にあった形でやっていければいいのかなと思っています。

子ども議会や大人の議員からも、いいところの町の部分ばかりを比較されると、えりもはこれできないか、あれできないかばかり言われると、正直なところつらい部分はある。いいところの町と競争しても勝てない。財政規模も違うし。やったとしても、継続するのが難しい。漁業はしっかり支えないといけないし、農業も少ないけども、肉牛の後継者もきてくれるし、できることをみんなで頑張っていくしかないと思っている。

教育長

次に庶野の給食について議題とします。学校教育課長から説明をお願いします。

学校教育課長

【資料に基づき説明】

教育長

教育委員会としては、このように準備は進めているということで理解いただきたい。

町長

給食の未実施は、庶野小のみである。これまでの案では、庶野小に給食施設や色々出たが、今はえりも小学校を改築して対応することで、進めている。また、庶野に給食施設を作った

ら、建設費や経費の部分や人件費の部分の問題がある。それであれば、えりもから配送するのが大変であるが、将来的に学校が統合した場合に、折角建てた給食施設が残っても大変なので、えりも小に作る方向となった。財政的な心配はあるが、なんとか給食の実施に向けて進めたいと思っている。

教育長

町長からのお話に対して、教育委員から何かありますか。

特にないようなので、最後になりますが、地域学校コミュニティスクール絡みで、えりもの状況を踏まえ、地道にやっていることをお話したいと思っております。社会教育課長からお願いします。

社会教育課長

【資料に基づき説明】

教育長

実際には、学校でいろいろな人材を見つけられるときは学校で、見つけられないときは、学校運営協議会を通じて、社会教育係に地域学校サポート本部がありますので、そこに要請をして、社会教育で人材を見つけて、学校に紹介すると、学校は紹介のあった直にその方に、話をして学習に生かしていく。できるだけ、学校の負担を少なくしながらも、地域の方々が学校に入りながら、理解をしたり連携したり、交流を深めていく。ということでやっている。

えりもの産業を踏まえた状況で、地道に進めていく。なお、今月学校運営協議会代表者会議を開催する。教育委員と地域学校推進委員とこのようなことを懇談しながら、より学校に地域の人材や協力体制を深めていくことで、昨年はコロナでできなかったが、今年は実施することとしている。

教育長

最後に町長からお願いします。

町長

児童生徒数の問題もあって、色々と難しい部分があるが、行政としてできることは、やります。ですから、委員の皆様も保護者からの声など、行政に対し言ってもらえれば、私の方でできることは、すぐやりたいと思っています。

部活動に楽器や道具も古くなったとかあると思いますが、一度には無理であるが、徐々に教育委員会を通じて話いただければと思います。できることは何とかしていきたい。今後、えりもの先生方には一生懸命頑張ってもらっているので、その部分に何とか報いたいと思っている。委員さんには、今後ともえりもの教育に対しよろしくお願いします。

閉会 午後5時10分